

奥日光ミーティング開催概要

奥日光地域のすばらしさやその伝え方などについて地域内で認識を共有するため、多様な地域住民および関係者が参加する「奥日光ミーティング」を開催した。

(1) 概要

日時

平成 24 年 2 月 17 日（金）13:00～15:30（開場 12:30）

会場

栃木県立日光自然博物館 2 階 レクチャールーム（日光市中宮祠 2480-1）

プログラム

- | | |
|-------------|---|
| 12:30～ | 開場 |
| 13:00～13:10 | 開会挨拶 |
| 13:10～13:35 | 講演 1：奥日光地域の魅力の再発見～私たちの財産、奥日光
齋藤 芳史氏（日光二荒山神社 禰宜 中宮祠部長） |
| 13:35～14:00 | 講演 2：自然をいかに魅せるのか～持続可能な自然資源の活用
南 正人氏（麻布大学獣医学部野生生物学研究室講師／
NPO 法人あーすわーむ代表理事） |
| 14:00～14:25 | 講演 3：地域を愛する心～協働型のまちづくり
阿部 治氏（立教大学 ESD 研究センター長・教授／日本環境教育学会長） |
| 14:25～14:35 | （休憩） |
| 14:35～14:45 | 調査報告：奥日光地域を訪れる観光客の多様なニーズ ～他観光地との
比較から
財団法人日本交通公社 |
| 14:45～15:30 | パネルディスカッション：「奥日光の魅力とその活かし方」 |
| 15:30 | 閉会 |

参加者数

112 名

奥日光ミーティングの様子

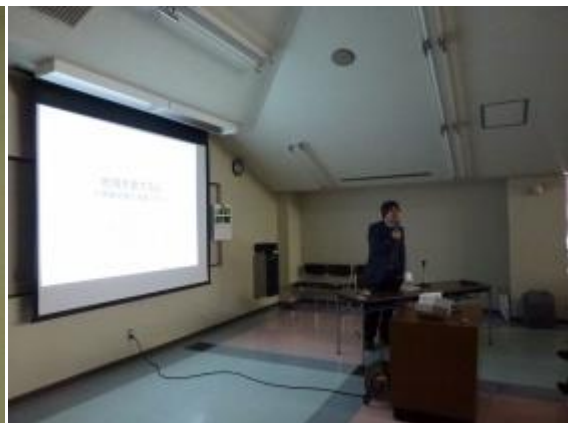
齋藤講師



南講師



阿部講師



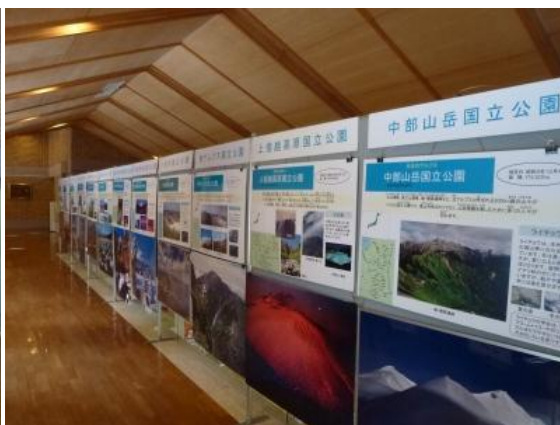
パネルディスカッション



会場の様子



写真展示コーナー



左：奥日光写真クラブ福田政行会長所蔵「秋の湖畔」、右：(財)国立公園協会所蔵「日本の国立公園」

(2) 記録

※講義 1、講義 2、講義 3、調査報告の詳細については、別途発表資料を参照。

パネルディスカッション

(会場より) 地元の小中学生が日光を歩いていない。まずは子供達に自分たちの地域のことをきちんと知ってもらったらどうか。

- 自分たちが生まれ育った場所に素晴らしい場所があることを伝えて行くことは大事なこと。地域の良さに気付かなかつたら U ターンもできない。ぜひ、進めていただきたい。
- 我々の時代は世界を目指していたが、今の若者は郷土愛がある。小中学生だけでなく、もう少し上の年代までを対象として、地元に対する興味を持たせる取組も可能性がある。
- 学校教育として踏み込んだ授業や両親が子供に教える時間は重要である。日光に何度も訪れていても、住んでいても、実際には知らないこともある。
- 地元以上に他地域の小中学生が多く訪れているように感じる。大人になった時に自分たちの誇りの場所として思ってもらえるような動きがあるとよい。また、群馬県内の学校が尾瀬を一度は訪れるように、栃木県、日光市の特定の学年は必ず日光に行くという取組もあり得るのではないか。
- インターンの大学生を積極的に受け入れることによって、学生は地元でどのような仕事があるのか確認できるし、うまくいけば地元で就職ということもあり得る。
- 安良沢小学校の 6 年生は横浜の小学校との交流があり、昨年、自分たちの地域のことを横浜の生徒に教えるということをしたら大成功だった。
- 制度的には難しいかもしれないが、こういうような人が集まるような場面で少しずつネットワークを広げていき、それが実現する方向に向かっていくと面白いのではないか。

(会場より) 中宮祠小中学校は小中あわせて 40 名弱で、中学には女子しかいない。変則的形態で地元としてはこれを是正したい。自然学校についてももう少し伺いたい。

- 自然学校とはいわゆる学校ではなく、地域の資源を活用して体験的に学んでいく環境教育の場のことで、特徴は指導者がいて、通年を通じてプログラムを展開し、施設があること。NPO グリーンウッドでは 60 人程度の農村留学生がいて、その留学生で成り立っている過疎地の学校もある。中宮祠でもそういった自然学校をつくり、そこを基点に活動することは可能。

(会場より) 毎年多くの子供たちが戦場ヶ原の木道を歩くが、周りの景色を見る余裕がない。修学旅行などの旅行を計画する際は、時間に余裕のあるスケジュールにしてほしい。

- 実物を望遠鏡で見せたのは一番良いこと。何を伝えたいのかについて、事前に学校の先生とじっくりと話し合う機会が必要である。
- 地元が主体となり、見せたいものやツアー内容を提案できたらよい。
- 地元として見せたいものは持っているが、エージェントは時間に追われている。エージェントと一緒に研究しながらツアーを作れるような機会があるとよい。
- オーストラリア北部のカカドゥ国立公園では、子供向けに森の中で体験してほしいものやその方法が具体的に書かれているシートと、先生向けに最低限学んで欲しいマナー・

知識をまとめたものが1冊1500円程度で販売されていて、売れている。今の時代は、地元が自分たちのものをしっかり作り、発信していくことが重要。

(会場より) 神社発行で、奥日光の魅力について冊子にしていただければ嬉しい。小中学校含め、勉強できるツールがあれば嬉しい。

○喜んで作りたい。最初は掘り下げないものがよいか。ぜひ進めていきたい。

(会場より) 中高年のお客様が増え続ける中、滞留時間が非常に少なくなっているのではと感じる。少しでも長い時間観光を楽しんでもらえるような事例があれば教えて欲しい。

○世界中で開催されている若者の地域交流プログラムの中で、長崎県の五島列島の小値賀(おぢか)が世界一に選ばれた。小値賀では民泊に滞在するプログラムを提供しており、田舎の日常の体験が良かったと評価された。沖縄県北部のヤンバル地域でも集落毎に自らガイドブックを作って300円で販売したり、自分たちの集落を有料で案内したりしている。東北のあるまちでは、自分の家で食べているものを持ち寄るイベントを実施したところ大変好評である。普通の生活について知ることが楽しいという観光客が増えている。

○軽井沢に新幹線が通ったことによって利便性は向上したが、本当に魅力あるところにしかならなくなった。逆に言えば、魅力があれば泊まるということ。例えば、夜や早朝にしかできないプログラムを実施し、泊まらないと体験することのできない、フルタイムで楽しめるメニューを地域全体でつくる必要がある。

○例えば、地元あげてハスカップを増やしてみる。今は中高年をはじめ健康志向があるので、その人たちに自然の地産地消のものを提供することでそれ以上のリピーターを期待できる。手をかけないで観光客を呼ぼうとしても無理。

(コーディネーター) 最後に、各講師より一言。

○子供から大人までと一緒に地域をまわりながら模造紙に地域の絵を描き、自分が良いと、あるいは悪いと思ったところの写真を貼り付けて文章を付け絵地図をつくる。世代を超えて同じ場を共有することから始めて地元の事を知る。そして20年後30年後にどういう地域にしたいのかを考える。温暖化、グローバリゼーションなどの問題がある中でどういう社会を目指すのか。20年、30年後のビジョンを掲げたうえで、そのためにすべきことを、地域として考えていかないといけない。

○宿泊施設とガイドの連携、どれだけタイアップできるかが勝負だと思う。宿泊施設であれば拠点になれるので、夜や朝のプログラムを一緒に行うなど利益が相互に流れる仕組みを作っていくことが大事。利害関係など難しいとは思いますが、宿泊がキーにならないと滞在時間が短くなり、日帰りが増え、そして結局できるプログラムが少なくなる。宿泊施設とガイドでこういうプロジェクトができるといい。

○勝道上人が男体山に登られて1230年の節目の年。神社としてもイベントを企画しているが、これを宣伝の材料上手く使ってもらいたい。奥日光は、男体山が開かれたことによって開発され、観光として栄えてきた。奥日光の原点を、より多くの人に知らせる1年にしてもらいたい。